

事業所における自己評価総括表

事業所名	済生会明和病院なでしこ		
保護者評価実施期間	R7 年 7 月 1 日 ~ R7 年 8 月 31 日		
保護者評価有効回答数	(児童発達支援)	対象者数：4名	回答者数：4名
	(放課後等デイサービス)	対象者数：21名	回答者数：12名
従業者評価実施期間	R7 年 6 月 1 日 ~ R7 年 6 月 30 日		
従業者評価有効回答数	(児童発達支援)	対象者数：11名	回答者数：11名
	(放課後等デイサービス)		
事業者向け自己評価表作成日	R7 年 10 月 14 日		

分析結果

事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していること 意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
事業所の設備等はバリアフリー化されており、利用者に合わせた生活空間、構造化された生活環境になっている。	利用者さんが安心して過ごしてもらえるような空間作りや仲間を意識できるような環境の配慮等、利用者さんの特性に合わせて調整を行っている。	引き続き、設備や配置等適宜見直しを行いながら、利用者さんが安心して過ごせる空間や環境が維持できるよう努める。
それぞれの課題やニーズに沿った個別支援計画書の作成がされており、その内容に沿った支援がされている。	毎日の反省会の中で、利用者さんの反応や日中のエピソード等を報告し合うことで、個々の特性（強み等）を共有している。	個々の強みが発揮できるよう可能性を探りながら、計画書に反映していく。
それぞれの専門性を発揮しながらきめ細かいサポートができる。	療育活動、機能訓練、健康管理等、各職種の専門性に応じた対応を継続的に行っており、協力体制が持っている。	利用者さんの細かな変化等にも適切に対応ができるよう、サポート体制を深めていく。

事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組 工夫が必要な点等
外部（近隣の園や学校等）との利用者さん同士の交流の機会が持っていない。	マスクの着用が難しいことから、感染リスクや感染した際の重症化を懸念すると交流の機会を持つことが難しい。	対面ではなく、オンライン等の活用方法も検討が必要。
保護者同士の交流機会が不足している。	利用曜日や送迎時間帯等がそれぞれ違いがあるため、保護者同士で関わりを持つ機会が少ない。	イベント等で保護者間で交流できる機会を設定し、相互サポート体制を作っていく。